

打馬あんしん安全見守り隊

独り暮らしの高齢者等の孤立死や事故等を未然に防ぐため、平成23年2月、市内で初めての「ふれあいネットワーク活動」組織となる「打馬あんしん安全見守り隊」が発足されました。見守り隊は、民生委員を中心に、協力する地域住民からなる組織。高齢者等の安否確認のための見守り・声掛け活動や、ゴミ出し・電球交換など、ちょっとした困りごとへの生活支援を行うのが主な活動です。

隊員は30人以上。見守りが必要とされる高齢者等一人ひとりに、担当する隊員が決められています。

定期的に行われる会合では対象者の見直しや方向性の確認等が行われます。また必要に応じて、鹿屋市社会福祉協議会や地域包括支援センターの職員を招き、情報提供やアドバイスを受けています。

このほか、町内会では、15人程のメンバーで、「うつまげんきな〜」という月1回の見守り活動も行われており、高齢者等を守る地域ぐるみの体制が二重に張り巡らされています。

「私の作品展」

打馬公民館で毎年10月に開催している「私の作品展」は、ふれあいサロン活動の成果をはじめ、生涯学習や趣味の発表の場になっています。

日々の活動や趣味を外へ発表することで、生きがいを感じ、楽しんでもらうことを趣旨としています。

会場では出品者が来場者に作品の説明をしたり、収穫した野菜等を来場者に配ったり、なかなか光景が見られます。



「私の作品展」は住民の発表の場

高齢者徘徊模擬訓練の実施

平成26年5月、打馬町内会では高齢者徘徊模擬訓練が実施されました。



初の試みに多くの関係機関が参加した徘徊模擬訓練

行方が分からなくなった場合を想定して、町内会や民生委員をはじめ、地域住民が協力し、地域ぐるみで徘徊者を捜索するもので、このような訓練が町内会単位で行われたのは、市内で初めてのことでした。

実施のきっかけとなったのは、実際に町内会で行方不明者が出て、その対応に追われたことと、先に市が実施した訓練に参加した際、地域の実情に合わせた実施したいと感じたこと。

町内会の地域福祉活動への熱い思いから実現したものです。町内会主体の訓練実施により、町内会では、地域の見守り体制について、さらに充実する必要があることを再確認できたとしています。

寿2丁目町内会

なんでも語れる地域を目指して

寿2丁目は市街地にあります。周辺の町内会の中で最も高齢化率が高いことから、寿2丁目町内会では、高齢化の対応を喫緊の課題とし、趣向を凝らした独自の活動を行っています。

寿2ふれ愛隊

民生委員の支援を受けていない高齢者でも、寿2丁目町内会では、支援が必要な高齢者を独

自にリストアップし、これを基に「寿2ふれ愛隊」が、対象者に対して見守り活動を行っています。

民生委員をはじめ、保健推進地域協力員、在宅福祉アドバイザー、ボランティアの計10人の女性メンバーで、月に2回、対象者宅を訪問し、声掛けや相談等の支援を行っています。

健康教室

もともと市が行っていた健康増進事業を、事業終了後も町内会がそのまま独自の活動として継続して行っているものです。

年に7回、寿2丁目公民館で行われます。誰でも参加可能ですが、講師の関係で平日に開催しているため、参加者は仕事を持たない高齢者が多く、結果的に高齢者の集いの場として役立っています。男性の参加者が多いのが特徴で、他の町内会ではみられない大変珍しい傾向です。

ヨガ教室

認知症予防のサロンとして位置付けられている「ヨガ教室」は、毎月1回、公民館で行われます。講師は民生委員が行い、毎回、10人程度の参加者が集まります。

「なんでも語ろう会」

十数年前、男性発案で始めた「なんでも語ろう会」は、毎月第3土曜日に公民館で行われています。町内会の役員が食材を持ち寄って手作りした料理を前に、500円の参加費で、「食べ放題、飲み放題、歌い放題」と銘打ち、意見交換を行い、交流を深めます。

以前は男性ばかりの会でしたが、昨年末ぐらいいから女性も参加するようになりました。毎回20〜30人が集まり、大変にぎわっています。会では様々なアイデアを聞き出し、生み出す場にもなっています。

参加者の大半は70歳以上。いつも参加している人がいないと、メンバーが心配して連絡するのが定着していることから、この会を通して安否確認も行われていると言えます。



寿2丁目町内会会長 西之園 孝一さん

公民館のふすまには、所狭しと活動の写真が貼られている

「語る会」を絆づくりに

「なんでも語ろう会」は寿2丁目町内会独自の素晴らしい会です。もっと若い人にも来てもらうよう声掛けを行い、世代を越えて、顔をつなぐ場にしたいと思っています。

その根底にあるのは「防災」です。今年度は町内会独自の防災マニュアルも作り上げる予定ですが、今後高齢化が更に深刻化する中で、不測の事態が発生した時に、町内会全体で対応する必要があると感じているからです。

そのためには相互の絆が必要です。「語る会」は、その端緒になればいいと思っているのです。

「隣は何をする人ぞ」ではなく、まずは「語ろう会」でお互いの顔を知り、次第にお互いに協力し合えるようになればいいと思います。

「相互の絆・「共助の精神」が、多くの人に芽生えることを目標に、今後も様々な行事を企画したいと思っています。



手料理を楽しみながらの「なんでも語ろう会」



男性の参加者が多い健康教室



第2ふれ愛隊の話し合いの様子